



2021年8月より、新しい骨塩定量測定装置「Horizon」の稼働を開始しました。今回は、骨塩定量検査についてご紹介をさせていただきます。

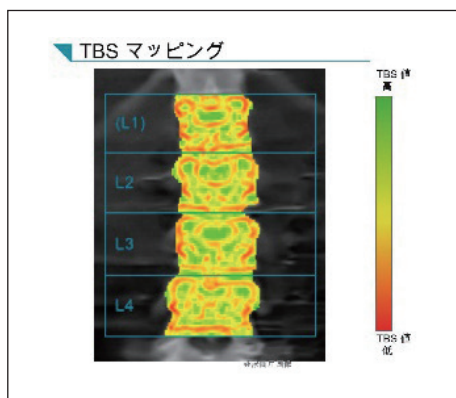
● 骨塩定量検査とは

「骨密度」を測る検査です。当院ではDEXA法（2重X線吸収測定法：Dual Energy X-ray Absorptiometry）という方法で検査を行っています。エネルギーの異なる2つのX線を測定する部位に照射し、骨や軟部組織を通過した際にそれぞれのX線がどの程度減弱するかを測定し骨密度を算出します。この検査で使用するX線量は微量であり、少ない被ばくで検査を受けていただけます。

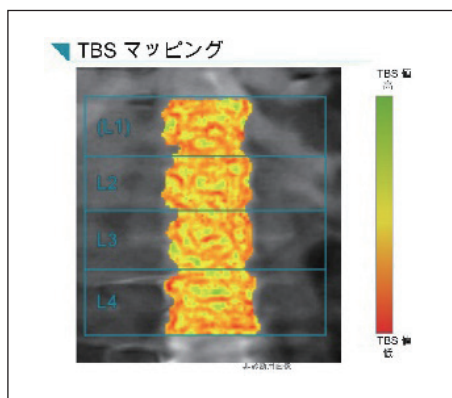
● TBS 解析について

今回導入された新しい装置では、TBS（海綿骨スコア：Trabecular Bone Score）解析が可能となりました。骨塩定量ではカルシウムやリンなどのミネラル成分が骨の中のどのくらい含まれるかを測定し骨密度として出しますが、TBS解析では骨の内部にある海綿骨の微細構造（骨梁）の数・間隔・密度を骨質として評価し、色で表現します。海綿骨は骨の内部にあり、スポンジのような網目状の構造をしています。このスポンジが骨粗鬆症によりスカスカになることで骨がもろくなり骨折しやすくなるため、海綿骨の状態を評価できるTBS解析を骨塩定量と併用することで骨折のリスクをより正確に評価することができます。

【TBS 解析の一例】



左：骨密度が正常な方



右：骨粗鬆症の方

海綿骨の密度が低くなるほど赤く表示されます。右の画像は左に比べて赤い箇所が目立っています。このようにカラースケールで表示されるため、視覚的に分かりやすく結果を確認していただけます。